

⑩コンクリート打設

作業空間に制約を受けるため、配管圧送によるポンプ打設により施工した。



写真 3.38 コンクリート打設状況

⑪養生

湿潤状態を保つ為、養生マットを保水状態にして使用する。また、必要に応じて散水も実施した。



写真 3.39 養生状況

⑫打継面処理

リフトの打継目のレイタンス処理はワイヤブラシと高圧洗浄機を使用し施工した。長期（4週以上）の間隔に対しては、打継ぎ面のチップング処理を実施した。



写真 3.40 イタンス処理

⑬堤体下流面補修完了

堤体下流面補修完了状況を示す。



写真 3.41 堤体上流面補修完了（左岸から）



写真 3.42 堤体上流面補修完了（左岸から）



写真 3.43 堤体上流面補修完了（右岸から）

4 まとめ

竣工後、約半世紀たった状況での補修事例で、上流面については無機質系補修材を使用した施工と、下流面については大規模なコンクリートの打ち替えを実施している。また、過去において、下流面にモルタル吹付けを、上流面には樹脂系補修材の塗布による補修を実施した経歴も有す。

今回の補修での効果、性能をこれからどれだけの期間保持し、またこのことにより、ダム堤体としての役割をより延命させる効果が得られたか、長期的な目で追っていく必要がある。その際にはすくなくとも、過去の補修技術より現在の方が進歩している事を考慮し、経年変化を追っていくべきと思われる。